島唄保存・伝承活動等取組事例

市　町　村　名	和泊町	
分　　類 （該当に〇）	1　保存・伝承活動　　2　後継者育成　　3　地域振興 4　観光振興　　5　その他（　　）	
	【事　例　1】	【事　例　2】
実施団体の概要	【名　　称】和泊町民謡同好会 【代 表 者】撰　ヨ子 【所 在 地】和泊町和泊591 【メンバー】１７名	【名　　称】山下民謡研究所 【代 表 者】山下　幸秀 【所 在 地】和泊町根折633－1 【メンバー】２０名
取 組 の 背 景	・　昭和50年，沖永良部島の民謡の消滅を恐れ，当時の文化協会長 朝戸 国善 氏が中心となり発足。	・　昭和５５年の発表会を皮切りに発足。沖永良部島の民謡のほか，沖縄民謡も広く指導している。
取 組 の 概 要	・　毎月第１・３日曜日に町中央公民館にて公民館講座を開講。 ・　文化と福祉の祭典等の町の文化行事への出演のほか，老人ホーム等への慰問公演も定期的に行っている。	・　町の公民館講座で三味線教室を開講。 ・　町内外の文化行事へ出演するとともに，10周年毎にリサイタルを開催するなど，広く民謡を披露する機会を創出。また，福祉施設への慰問公演も毎年行っている。 ・　地元の小学校４年生と中学校１年生にも「総合的な学習の時間」で子ども達にも民謡の指導を行っている。
成　　果	・　和泊町の代表的な民謡である「イチカ節」や「サンゴ節」等を歌い続けることで，後世に伝え,保存することができている。	・　町の文化と福祉の祭典のほか，子ども芸能発表会等で子どもから大人まで，大勢の観客の前で練習の成果を発表している。
課　　題	・　会員の多くが高齢者のため，次代を担う若い唄者を確保することが長年の課題である。	
今 後 の 取 組	・　今後も様々な行事に出演し，沖永良部島の民謡を広めるとともに，若い唄者育成のための取組を展開していく必要がある。	